



3



1



4



2

©Atelier 105
1.キッチンもバイン材でナチュラルな雰囲気に。キッチンの周りを回遊できるようになっているので、動線もスムーズだという。2.「来客があっても泊まっていたできるように」としつらえた和室。シンプルな量緑がモダンな印象。3.広々としたエントランス。玄関を一步入ると木の香りに包まれる。右側はシューズクローク。4.リビングとダイニングはキッチンを中心にL字型にレイアウトしたことにより、キッチンに立ったまま家族との団らんに加わることもでき、子どもにも目が届く。

設計
アトリエ 105
秋田市
O 邸
case 09



実家の居心地の良さがお手本。 リピートしたくなる快適な「Q1住宅」とは

自然素材と自然の摂理を上手に活用するノウハウの蓄積が環境にも、住む人にも心地いい住宅をつくりだす。

家を建ててから「実家の両親を含め、人がよく遊びに来てくれるようになったのがうれしい」と妻のNさん。子育てにも最適な環境が得られたとこやかに話してくれた。



1.和室の前庭もNさんが自ら作庭。南側のガレージで直射日光は避けながら、採光も確保されている。2.木の温かみを生かした外観。杉板に「ウッドロングエコ塗装」という木材が長持ちする塗装を施している。



©Atelier 105

Data

- 設計 アトリエ105 施工 志村建設株式会社 ●竣工 2014/5
- 構造・工法・規模 木造・軸組工法・2階建 ●敷地面積 371.90㎡ (約113坪)
- 床面積 237.17㎡ (約72坪) 1階 145.66㎡ (約44坪) 2階 91.51㎡ (約28坪) アプローチ 23.19㎡ (約7坪)

主な設備

- ▶暖房設備 太陽熱利用ガス温水暖房 ▶給湯設備 太陽熱利用ガス給湯 ▶バス TOTO サザナ ▶トイレ TOTO ネオレスト ▶キッチン Panasonic リビングステーション Lクラス ▶調理設備 ガス ▶キ太陽光発電設備4.00kW

主な仕上げ材

- ▶床材 無垢パインフロア ▶壁材 ケンコート、クロス(水回り) ▶窓仕様 木製サッシLow-Eトリプルガラス ▶屋根材 ガルバリウム鋼板 ▶外壁材 スギ板張り ウッドロングエコ塗装 ▶Q値 0.78W/mK

コスト(税抜)

- ▶建築総工費 5,000万円台 ▶坪単価 70~75万円
- ▶太陽光発電設備費用 162万円

Oさんが家づくりを考え始めたとき、まさか頭に浮かんだのが自身の実家のことだった。「実家は15年ほど前に、NPO法人新木造住宅技術研究協議会(以下、新住協)の代表理事である鎌田紀彦さんに設計していただいたものです。それがとても快適で、自分の家を建てるにあたり、今度もぜひ鎌田先生にと連絡したところ、秋田でQ1住宅を手がけられているアトリエ105の鳥潟さんを紹介していただいて(Oさん)。

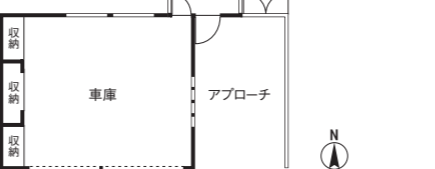
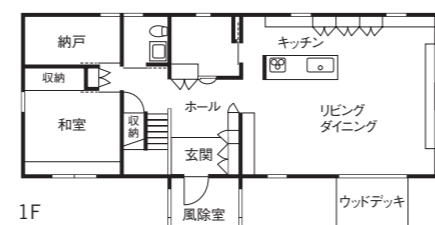
新住協は高断熱を基本性能とした住宅技術を研究開発している民間の技術開発団体で、熱損失を示すQ値が1.0W(毎平米ケルビン)前後の住宅のことを「Q1住宅」と銘打って普及を進めてきた。具体的には、断熱性を高め、太陽エネルギーを効率的に活用し、暖房エネルギーを減少させることでCO2削減に貢献しようというものだ。O邸も冬場は太陽光発電や太陽熱温水器で室内を暖め、夏場はヒートチムニーで熱を逃がすなど、自然エネルギーを効率よく利用する仕組みが詰まっている。「条件が良い場合には、自然エネルギーを利用したシステムだけで家の中の電力・給湯をすべて賄えるので、経済的にも助かります。年間を通していつも快適。とくに冬場の暖かさは格別です」とOさん。

「建築家との家づくり」という少しハードルが高いようにも感じられるが、「そんなことは全然ないですよ」とOさん。「むしろどんなに小さなことでも納得いくまで相談することができて、満足度はとても高いと思います。細かい所まで話し合いを重ねるのは大変ですが、その結果、自分たちの希望を限界まで叶えることができたのは、建築家との家づくりならではだと思います」と語る。

家づくりとしては理想的な環境だったと思います。打合せはいつもご両親を含めた家族全員で理想を目指して意見を出し合い、それに時折鎌田先生も加わって、少々大変ではありましたが、楽しくもあった物件でした。



設計 鳥潟さん



内装にパイン材や木製サッシ、外装には杉板と自然素材をふんだんに使ったことも、住みやすさに直結している。天井にあるのがヒートチムニー。

自然の仕組みを生かした家は
人にも、環境にも優しい